

French Literature

フランス文学専修

フランス文学は、中世の騎士道恋愛物語や寓意物語から、20世紀のサルトルやフーコー、そして最近のモディアノ、ウエルベックにいたるまで、世界の文学・思想の先端に位置して、大きな影響を与え続けてきました。当専修ではこのようなフランス文学の魅力をもさまざまな角度から研究しています。専任スタッフはそれぞれ小説、思想、演劇という異なるジャンルを専門としており、授業科目も中世から現代まで、小説、詩、演劇、思想、フランス語学などあらゆるジャンルにわたって、皆さんの関心に応えるように配慮しています。フランスの学者や作家を招聘したり、交換留学制度を活用してフランスの大学で学んだり、日仏の学術・教育交流も活発に行っています。知的好奇心をふんだんに持って、フランス語を少しずつ学んでゆけば、狭い研究室がいつしか広い世界へ通じています。

生涯の愛読書を見つけよう

フランス文学は、人間の善悪と美醜をありのままに見つめます。苦しむ者を癒やし、努力する者を励まし、愛する者を祝福します。あなたの生涯の愛読書がきっと見つかるでしょう。

フランス語・フランス文化のエキスパートに

卒業までに、①高度なフランス語能力（仏検準1級水準）、②フランス文学・文化・歴史に対する広範な知識、③論理的・客観的な論述の方法、を習得することを目標としています。

<http://www.gallia.jp/wordpress/>

教員

山上浩嗣 教授 やまじょう・ひろつぐ
Eric Avocat 特任准教授（常勤） エリック・アヴォカ

どんな授業があるの？

【講義題目】

フランス20世紀文学原文講読

Introduction au romantisme français: poésie, théâtre, littérature, sensibilité

パスカル『パンセ』を読む

フランス・ルネサンスにおける古典の受容と詩の実践

【演習題目】

フランス文学と西洋絵画

La chanson française: poésie, histoire, société

ブルースト『ソドムとゴモラ』研究

ラシーヌ『アンドロマック』を読む

何を学んでいるの？

フランス文学史講義

フランス文学史の主要な潮流、概念、作家について、ルネサンスから現代に至る名作を厳選して取り上げ、作品の原文抜粋や映像資料をも用いながら概説する。

フランス文学演習

フランス文学の古典的作品（小説、詩、哲学作品、文芸批評など）を一つ取り上げ、フランス語原典を講読する。フランス語読解の基礎力を固めるとともに、テキスト分析の方法を学ぶ。

フランス文学講義

フランスの作家、潮流（古典主義、ロマン主義、象徴主義など）歴史的事象（ルネサンス、フランス革命、大戦など）のひとつを取り上げ、関連する作品の分析に基づいて概説する講義。

フランス語学演習

アヴォカ准教授によるフランス語の授業。フランスの新聞記事、ラジオ番組、テレビ広告、文学作品の抜粋など、さまざまな素材を用いて、フランス語の実践的な聞き取り・作文能力の訓練を行う。

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

マルセル・ブルースト『失われた時を求めて』における音楽作品の機能—ヴァントウイユの「七重奏曲」を中心に

『失われた時を求めて』の中に芸術的啓示の象徴として登場するヴァントウイユ作「七重奏曲」の楽器構成を實在の作品と比較しつつ分析し、「金管楽器」をトランペットと特定するとともに、その意味を物語展開および小説のメッセージと見事に関連付けた。国際的にも通用する刺激的な力作である。（選：山上浩嗣 教授）

ルソー『人間不平等起源論』における《homme Sauvage》

homme Sauvage とは未開人のこと。ルソーは原初の人間である「未開人」の属性を「自己愛」と「憐み」であるとみなした。この未開人の自己保存の追求に困難が生じたときに、社会は不平等の段階に移行する。ルソーの錯綜した論述を精緻に分析し、一貫性のある主張を導き出した秀作である。（選：山上浩嗣 教授）

【卒業論文題目】

ラ・フォンテーヌの『寓話』におけるロバの役割

デイドロの美術・絵画思想における衣服の機能とその射程

ラシーヌ『バジャゼ』における視線と発話

フランス語における歯擦音の古フランス語期からの通時的研究

ロマンティック・バレエ『ジゼル、又はウィイ達』における

男性登場人物と男性観客の関係について

ラディゲ『ドルジェル伯の舞踏会』における「田舎」の機能

『赤と黒』の女性たち

マザリナードの機能



毎日の授業風景より

意外と身の回りに「フランス」はあふれています

学生
インタビュー

なぜフランス文学専修を選びましたか？

平島 中学生の頃に見た『巖窟王』というアニメの原作がフランス文学であることを知り、それが元となって中高とフランスの小説を多く読みました。そのときはじめて触れたフランス文学のもつ奥深さに関心を持ち、大学ではフランス文学を専修することに決めました。

竹田 高校時代にフランスへ旅行したのをきっかけに、特有のリズム、音の響きといったフランス語の美しさに魅かれるようになりました。大学でフランス語を本格的に勉強したい、日常会話を話せるようになりたいと思いこの専修を選びました。

普通の授業はどのような感じですか？

平島 フランス人の先生の授業は基本的にフランス語のみで進行し、その中で実践的なコミュニケーションを学びます。またアヴォカ先生はとても博識で、授業の合間にお話していただける今のフランスについてのホットな話題は聞いていてとても楽しいです。

どのようにフランス語を習得しましたか？

平島 研究室にはプライベートで語学学校に通う人もいますが、私は、研究室で開講されている授業に出席するだけで十分な力が付くと思います。読む、書く、話す能力がまんべんなく鍛えられるので、授業の予習・復習をきちんと行うだけで生きたフランス語を身に付けられます。

竹田 留学に行く人も多いです。私は大学の交換留学制度を利用し、1年間ストラスブールに留学していました。留学の前半の時期は語学学校に通いフランス語のブラッシュアップにはげみ、後半は、現地の大学で開かれている

文学作品やフランス語史についての授業に出席していました。現地の学生とのコミュニケーションを通して会話力を身に付けることができるのも留学の醍醐味だと思います。

留学生活で楽しかったことやつらかった思い出はありますか？

竹田 最初は大学の授業のフランス語がなかなか聞き取れず苦労しました。授業を録音して自宅で何度も聞き返したり、図書館で参考文献を借りて読んだり、なんとかついていこうと必死に勉強しました。大変でしたがそのおかげで実践的な力が付いたと思います。

平島 私はトゥールで1か月間語学学校に通い、ホームステイをしました。ホストファミリーはとても親切で日本人の私にもわけ隔てなく接してくれました。また、クラスメイトの外国人留学生とも仲良くなって、放課後や休日と一緒に観光旅行もしました。今でもたまに連絡を取っています。留学前は不安でいっぱいでしたが、帰国日にはまだ帰りたくないと思うほどの良い経験ができました。機会があればまたホームステイしたいです。

後輩へのメッセージ

平島 『レ・ミゼラブル』というタイトルを聞いたことがある、マカロンのような甘いものに目がない、チーズが好き、エッフェル塔に登ってみたい…きっと気付いていないだけで、意外とあなたの身の回りに「フランス」はあふれています。フランス文学研究室の扉をたたくきっかけはどんな些細な事でも構いません。お会いできる日を楽しみにしています。

竹田 フランス文学の作品をあまり読んでいないという方も大歓迎です。実際私もそうでしたが、フランス文学専修で様々な作品に触れていく中で、お気に入りの作品に出会えたり、フランスの文化や思想を学ぶことができたりと、自分の見識を広げられる貴重な経験ができています。フランスに少しでも興味があれば、是非フランス文学研究室を訪ねてみてください。

[インタビュー協力]

平島沙紀子 (4年)

竹田華奈 (4年)



2019年度研究室夏合宿